



2026年12月期 第1四半期決算説明資料

2026年5月15日

代表取締役 社長執行役員 伊藤 正

Copyright © GMO Internet, Inc. All Rights Reserved.

本日はお集まりいただきありがとうございます。
代表取締役 社長執行役員の伊藤でございます。
これよりGMOインターネット株式会社
2026年12月期 第1四半期 決算説明会を開始いたします。

1. 2026年第1四半期 決算サマリ

2. 成長戦略・各分野の進捗と施策

3. 株主還元について

4. 参考資料

2

本日のアジェンダはご覧の通りです。
決算の状況や成長戦略にそった各分野の進捗について
皆様にお伝えいたします。

1. 2026年第1四半期 決算サマリ

2. 成長戦略・各分野の進捗と施策

3. 株主還元について

4. 参考資料

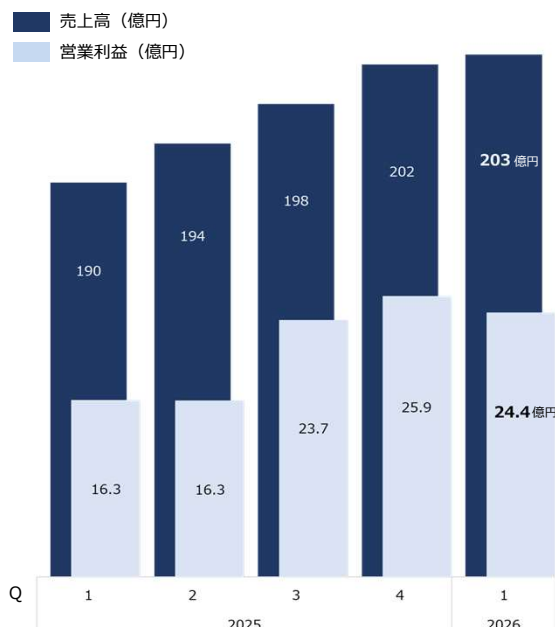
ではまず、2026年第1四半期の決算状況に加え、先日実施をした公募・売出についてご説明いたします。

	2026年Q1	通期予想	通期進捗率
売上高	203億円	820億円	24.9%
営業利益	24.4億円	94.6億円	25.8%
経常利益	24.1億円	91.0億円	26.5%
純利益	16.5億円	59.0億円	28.0%

通期予想に対し
Q1時点で25%の進捗
期初進捗は順調

連結全体の業績状況です。

2026年第1四半期時点で、いずれも通期業績予想に対し約25%前後の進捗となっております。
新体制2年目のスタートとなる第1四半期ですが、全指標において通期予想に対し順調な進捗となりました。



売上高
YoY +12.9億

増加要因

- ・ GPUクラウド事業を含め、インターネットインフラ事業全体で堅調に増加

QoQ +1.7億

増加要因

- ・ インターネット接続事業の繁忙期により前四半期より売上が増加

営業利益

YoY +8.0億

増加要因

- ・ GPUクラウド事業の立ち上がりを中心に利益増

QoQ ▲1.5億

減少要因

- ・ 広告宣伝費・販売促進費などの成長投資増加

続いて、四半期ごとの売上高・営業利益の推移についてご説明いたします。

売上高は前四半期からプラス1.7億円の203億円、前年同期からプラス12.9億円となりました。

GPUクラウドを含むインターネットインフラ事業全体が堅調に推移したことに加え、インターネット接続事業の繁忙期需要が寄与しております。

営業利益は前年同期比でプラス8億円の24.4億円となりました。

GPUクラウドの立ち上がりを中心に大きく増益となった一方、前四半期比ではマイナス1.5億円となっており、広告宣伝費・販売促進費などの成長投資の増加が主な要因です。

目的	東証プライム市場 上場維持基準の充足 GPUクラウド事業における投資資金調達
株数	新株発行：3,000万株 株式売出：6,150万株（OA分を除く・GMO-IG（株）より売出）
発行価格（募集価格）	710円
資金調達額	202億円
上場維持基準	7.7%→ 41.5% となり 上場維持基準適合

こちらは、3月に決議いたしました新株発行および株式売出の概要です。

東証プライム市場の上場維持基準の充足、およびGPUクラウド事業における投資資金の調達を目的とし、
新株発行3,000万株・オーバーアロットメント分を除き、株式売出6,150万株を実施いたしました。

発行価格は710円、調達資金は総額202億円となり、上場維持基準となる流通株式比率は7.7%から41.5%へ大きく改善しました。
東京証券取引所からも上場維持基準の適合について通知を頂き、昨日開示を実施いたしました。

GMO INTERNET



2026 年 5 月 14 日

各 位

住 所 東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号
 会 社 名 GMO インターネット株式会社
 代 表 者 代表取締役 社長執行役員 伊藤 正
 (コード番号 4784 東証プライム)
 問い合わせ先 執行役員 菅谷 俊彦
 T E L 03-5728-7900
 U R L <https://www.internet.gmo/>

上場維持基準への適合に関するお知らせ (プライム市場継続上場に係る全基準への適合完了について)

当社は、2026 年 3 月 9 日「上場維持基準への適合に向けた計画（改善期間入り）」について、上場維持基準への適合に向けた計画を開示しておりました。この度、株式会社東京証券取引所より上場維持基準（分布基準）への適合状況に関する適合判定通知を受領し、2026 年 4 月 28 日時点において、東京証券取引所プライム市場におけるすべての上場維持基準に適合しましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況

当社の、東京証券取引所プライム市場の上場維持基準の適合状況は下表のとおりとなっております。2025 年 12 月末時点では、流通株式比率について基準に適合しておりませんでしたが、上場維持基準への適合に向けた計画に基づき取り組みを進めた結果、2026 年 4 月 28 日時点で適合いたしました。これにより、東京証券取引所プライム市場の上場維持基準のすべての項目に適合することとなりました。

市場区分		株主数	流通株式数	流通株式 時価総額	流通株式 比率
プライム市場上場維持基準		800 人以上	20,000 単位	100 億円	35.0%
当社の 適合状況 (※1)	2025 年 12 月末時点	25,335 人	212,614 単位	186 億円	7.7%
	2026 年 4 月 28 日時点	適合済	適合済	適合済	41.5%
2026 年 4 月 28 日時点の 適合状況 (※2)		—	—	—	適合

※1：当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株主等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

※2：2025 年 12 月末時点で不適合であった流通株式比率のみ東京証券取引所からの審査を受け、その結果を記載しております。

2. 上場維持基準への適合に向けた取り組みの実施状況

当社は、2026 年 4 月 10 日「新株発行及び株式の売出しに関するお知らせ」のとおり、①新規事業である GPU クラウド事業における成長資金調達、②東証プライム市場上場維持基準への適合、③流動性の向上及び個人投資家層を中心とした株主層の拡大を目的として、同日付の取締役会決議により、新株発行及び株式の売出しを行うことを決定し、実施いたしました。この結果、不適合であった「流通株式比率」についても適合となり、上場維持基準のすべての項目に適合いたしました。

今後も、継続して東京証券取引所プライム市場における上場維持基準に適合していけるよう、持続的な成長と企業価値の向上に努めてまいります。

以上

こちらが昨日行った開示です。

流通株式比率35%への適合をもって、
 再編以来進めていた上場維持基準への適合に向けた取り組みが無事完了いたしました。

調達資金 総額 202億円

GPUクラウド事業への投資 197 億円

投資進捗

済 101億円

残 96億円

Turing出資 : 32億円 (3/18 決議)

2027/12までに追加投資予定

B300 42台調達 : 69億円 (4/10 決議)

※差額の5億円は借入返済に充当

8

続きまして、今回調達した資金の使途についてご説明いたします。
調達資金の総額202億円のうち、197億円をGPUクラウド事業への投資に充てる計画としております。

既にGPUサーバーの調達に69億円、Turing様との資本業務提携に伴う出資に32億円、合計101億円の投資をおこないました。

残りの96億円につきましても、2027年12月までにGPUクラウド事業へ順次投資を実行してまいります。

公募/売出完了を受け
積極的に推進

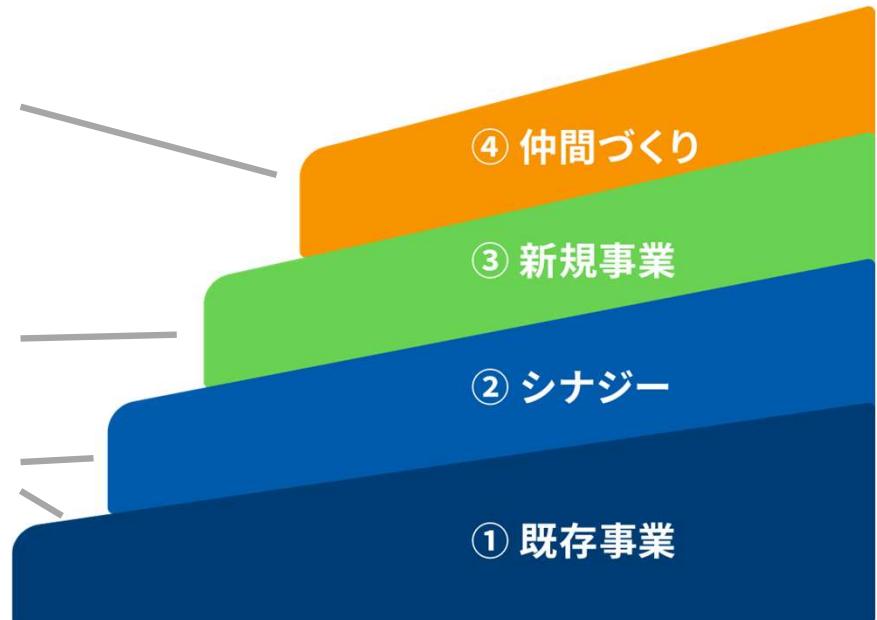
資本政策上の制約が解消
検討・協議を機動的に推進

調達資金による
GPUへの投資実行

96億円をGPU等の設備投資に充当

既存事業の安定・継続成長

岩盤ストック収益の15%成長を下支えに、
新規事業/仲間づくりへの投資と
安定した全社の利益成長を両立



公募・売出の完了を受けた今後の方針についてご説明いたします。

岩盤ストック収益として15%成長を見込む既存事業の安定的・継続的な成長を下支えとしつつ、
調達資金によるGPUクラウドへの投資を積極的に推進してまいります。

加えて、今回の公募・売出の完了により資本政策上の制約が解消されましたので、
仲間づくりに関し、候補となるお相手の検討や協議など、機動的に展開してまいります。

連結業績サマリ（セグメント別）




	売上高	営業利益
インターネットインフラ事業	175億円	22.1億円
インターネット広告・メディア事業	29.8億円	2.9億円
その他及び連結消去	▲1.8億円	▲0.7億円

10

続いて、セグメント別の状況についてです。
 こちらは短信に記載されているセグメントに分けております。

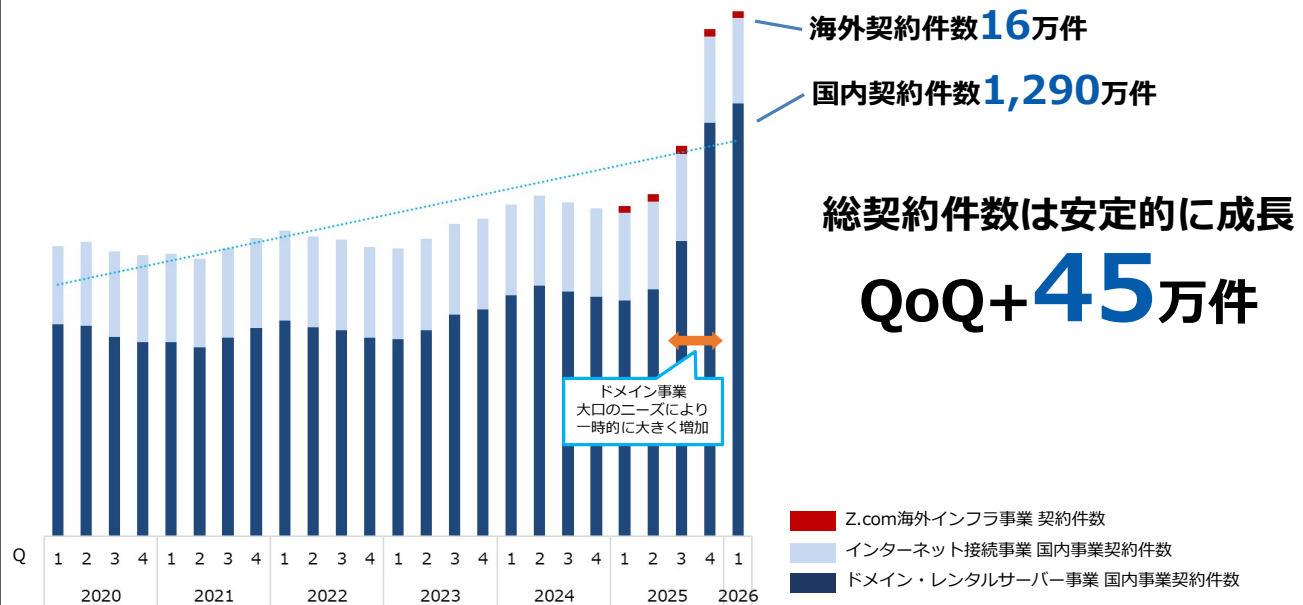
連結業績サマリ（セグメント内訳）

GMO INTERNET

			売上高	営業利益
インターネット インフラ事業	ドメイン・ レンタル サーバー事業	  GMO GPUクラウド	56.0億円	14.6億円
	インターネット 接続事業	 GMO BIZアクセス	106億円	20.8億円
	インフラ その他	海外事業 インフラ事業 共通費等	12.8億円	▲13.2億円
インターネット 広告・メディア 事業	インターネット 広告・メディア 事業	GMO NIKKO GMO INSIGHT	29.8億円	5.0億円
	広告・メディア その他	広告事業 共通費等	- 億円	▲2.0億円
その他及び連結消去		全社共通費等 連結消去	▲1.8億円	▲0.7億円

11

セグメントの内訳をさらにブレイクダウンしたものがこちらです。
各事業の状況はご覧の通りです。
こちらの前年比較や推移については、後ほどご説明させていただきます。



こちらは各事業における契約件数の推移です。
第1四半期においては、国内全事業の契約件数が1,290万件となりました。

昨年第3四半期・第4四半期は、ドメイン事業における大口のお客様の契約により大きく増加をしておりましたが、
足元ではその影響は落ち着いた上で、安定的に成長をしております。

1. 2026年第1四半期 決算サマリ

2. 成長戦略・各分野の進捗と施策

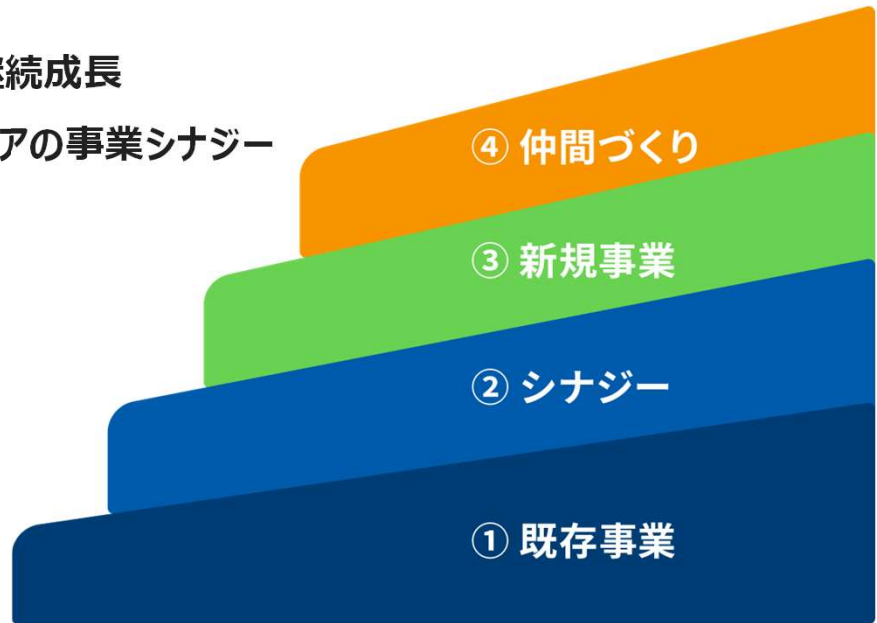
3. 株主還元について

4. 参考資料

13

続いて、成長戦略に沿って各分野の進捗状況をお話します。

- ① 既存事業の安定・継続成長
- ② インフラ×広告メディアの事業シナジー
- ③ 新規事業
- ④ 仲間づくり (M&A)



14

こちらの図は今後の成長戦略のイメージです。

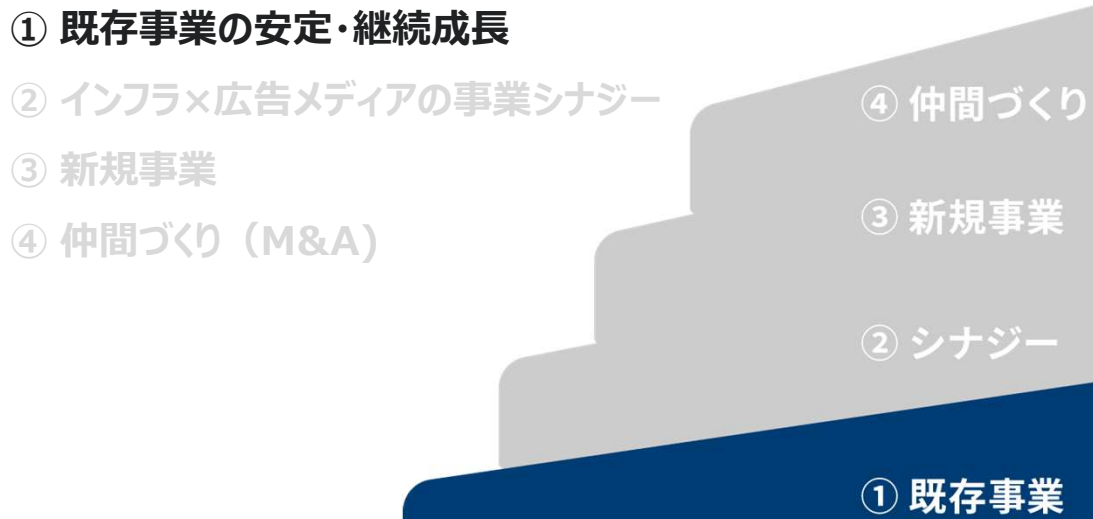
改めて内容についてご説明をさせていただきますと、この成長戦略は4つのカテゴリで構成しています。

1つめに、強固な収益基盤であるインターネットインフラ事業などの既存事業を、安定的に継続成長させていきます。
これは当社のベースとなるところです。

2つめに、インフラ事業と広告メディアの事業シナジーにより 既存事業の更なる成長を見込んでいます。

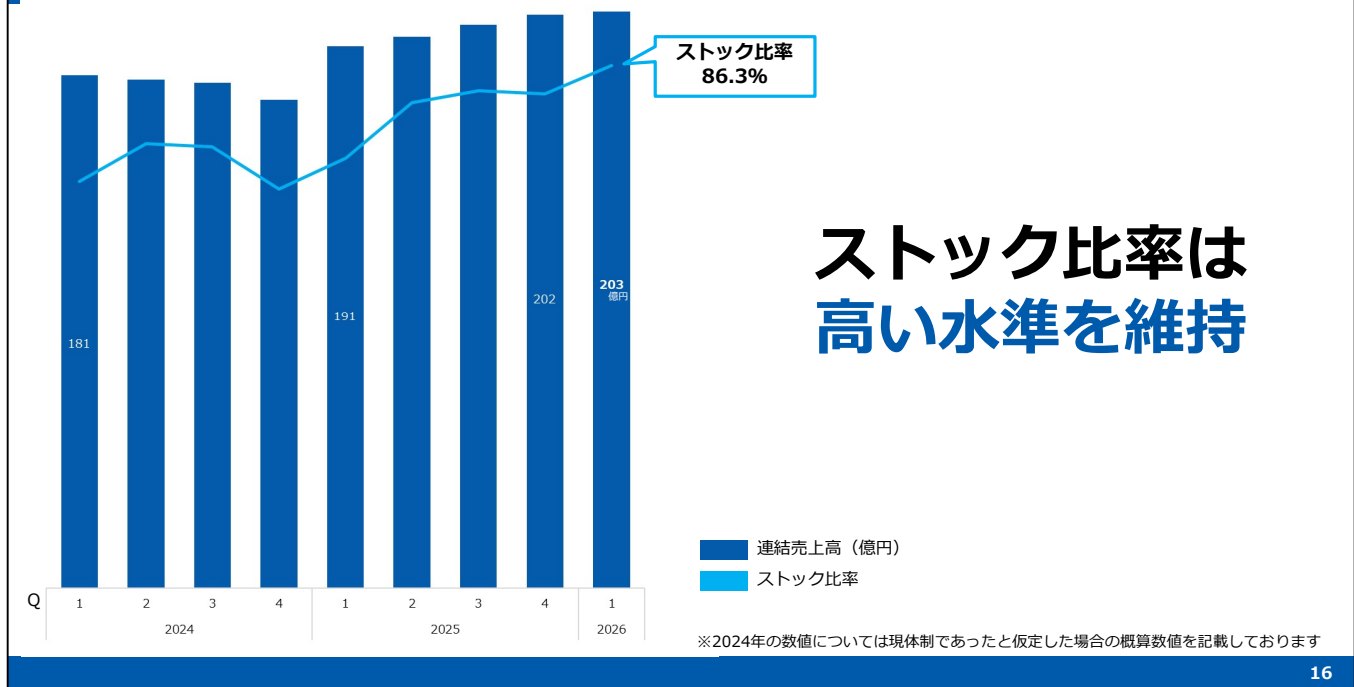
3つめに、GMO GPUクラウドなどの新規事業を成長ドライバーと捉えております。

4つめに仲間づくりへの投資によって、利益規模の拡大と企業価値の向上を図ります。



まずは既存事業の状況についてご説明させていただきます。

連結売上・ストック売上比率 推移

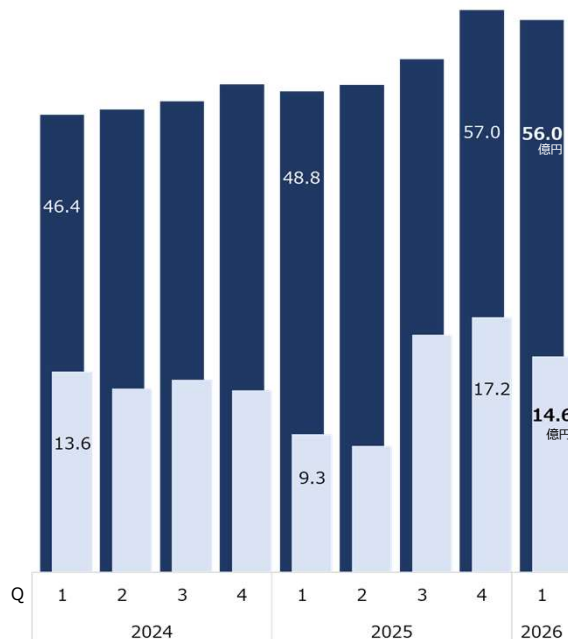


16

契約件数とあわせて、既存事業の収益基盤の指標としているストック比率です。

第1四半期の売上高におけるストック比率は86.3%となりました。

引き続き高い比率をキープしており、当社の安定的な収益基盤に継続的に寄与しています。



GPUクラウド
H200 高稼働継続
B300 提供開始

既存事業は広告投資増

■ 売上高 (億円)
■ 営業利益 (億円)

※2024年の数値については現体制であったと仮定した場合の概算数値を記載しております

17

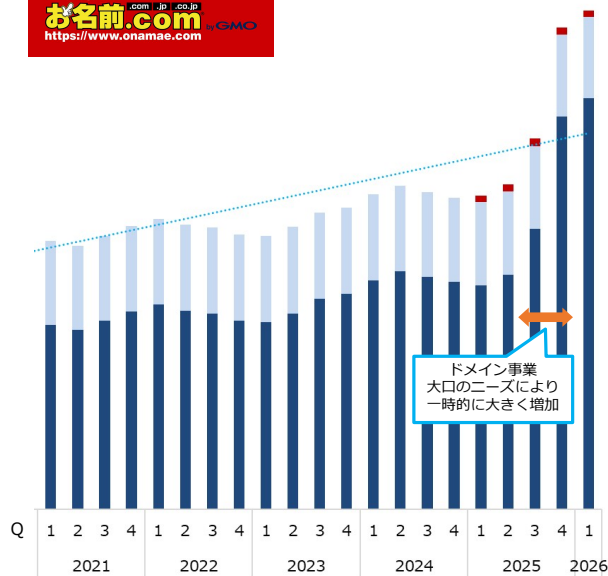
続いて、事業ごとの状況についてご説明いたします。
まずドメイン・レンタルサーバー事業の第1四半期の進捗です。

既存事業については、若干の増減はあるものの売上は継続して増加基調で推移しております。

またGPUクラウド事業についても前四半期から高稼働を継続しています。

一方で利益面に関しては、B300の償却開始に加え、
既存事業における広告投資の増加により、営業利益では前四半期対比で減少しています。

ドメイン取るなら 公認ドメインサービス
お名前.com
https://www.onamae.com



ドメイン大口契約による契約数の増加について

- ・ 2025年Q3-Q4にドメイン契約件数が急増
- ・ 法人・事業者による大口契約が主因
※ドメイン売買・SEO/AIO検証目的等
- ・ 1年契約のため、本年下半年に一定程度の減少を想定
- ・ 大口購入のため低単価、業績への影響は限定的

■ Z.com海外インフラ事業 契約件数
■ インターネット接続事業 国内事業契約件数
■ ドメイン・レンタルサーバー事業 国内事業契約件数

18

先ほども触れました、契約件数KPIにおけるドメイン事業の契約件数について、詳細をご説明させていただきます。

昨年第3四半期から第4四半期にかけて、ドメインの契約件数が急増しております。これは法人や事業者によるドメイン売買・SEOやAIOの検証を目的とした大口契約が主な要因です。

これらは1年契約となるため、本年下半年において一定程度減少するものと想定をしています。

なお、大口購入向けの低単価でのお取引となっておりますので、業績に与える影響は限定的と考えております。



※1
GMOプライム・ストラテジーの
「**KUSANAGI**※2」
上位エディション提供開始

さらに高速なWordPress環境へ

※1 2025年12月 GMOインターネットグループ（9449）連結にジョイン

※2 WordPressをはじめとするCMSを高速・セキュアに動かすための、チューニング済みサーバーOS

19

レンタルサーバーサービス『ConoHa VPS』では、グループシナジーを活かし
昨年末にGMOインターネットグループにジョインした
GMOプライム・ストラテジーが開発・提供する高速CMS実行環境
「KUSANAGI」の上位エディションの提供を開始いたしました。

「KUSANAGI」自体はかねてより提供しておりましたが、今回の上位エディションにより、さらに高度な性能最適化・セキュリティ強化を実現します。

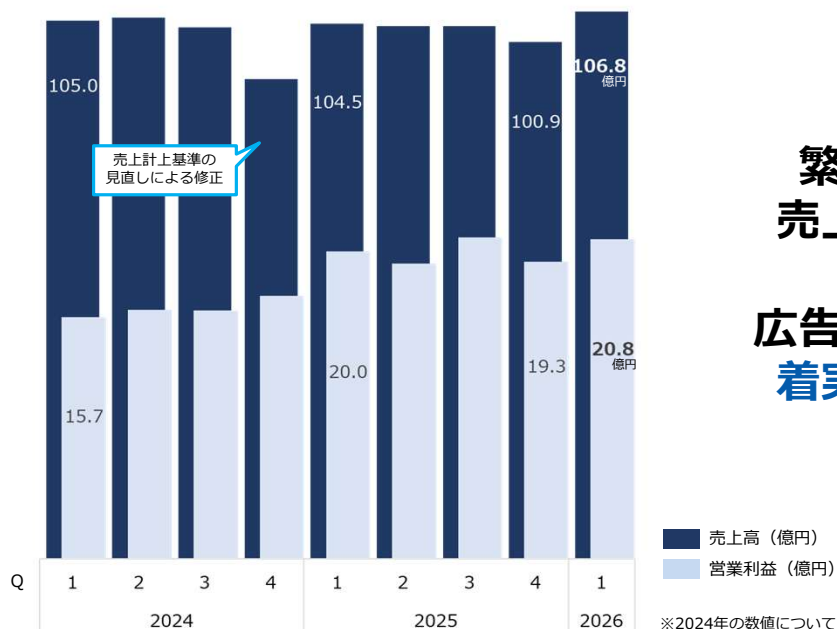


女性向けキャリアスクール 「SHElikes」を運営する SHE株式会社と業務提携

女性デザイナー・起業家等への
アプローチ強化・新規開拓

さらにConoHaでは、リスキリングや副業への関心の高まりを背景に、国内最大級の女性向けキャリアスクールとして成長を続ける「SHElikes（シーライクス）」との連携を開始いたしました。

これまで当社がリーチできていなかった顧客層へのサービス展開を進めるとともに、Webでの情報発信という、新たなキャリアの選択肢を広げる支援体制の構築を目指してまいります。



繁忙期需要もあり
売上・利益共に増加

広告投資を増やしつつ
着実に利益積み上げ

つぎに、インターネット接続事業です。

引っ越しシーズンによるプロバイダの繁忙期需要を背景に、売上・営業利益ともに前四半期から増加しております。

これまでの実施してきた販売ミックスの改善に加え広告投資も実施し、足元および将来の利益の積み上げを図っていきます。

すべての人に笑顔・感動・熱狂を

GMO ARENA
saitama



さいたまスーパーアリーナ
新愛称
「GMOアリーナさいたま※」

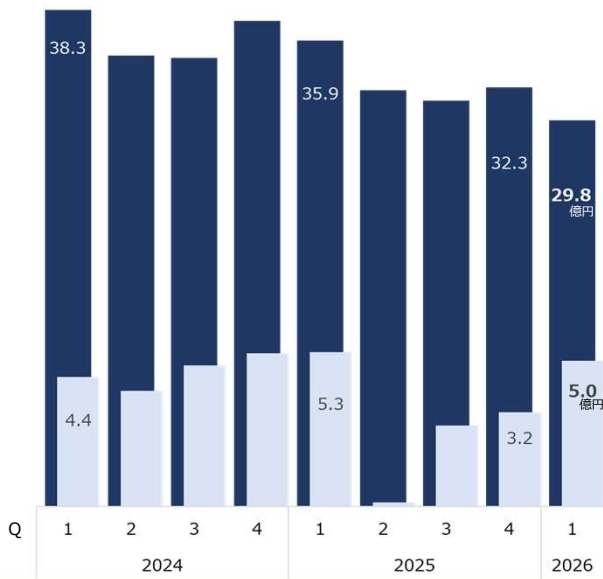
「スマートアリーナ」
モデルケース構築を支援

※2026年3月30日 GMOインターネットグループ（9449）がネーミングライツを取得

22

GMOインターネットグループが株式会社さいたまアリーナと、バリューアップ・ネーミングライツパートナー契約を締結したことにより
2026年4月1日より「さいたまスーパーアリーナ」の愛称が「GMOアリーナさいたま」となりました。

当社は個人のお客様向けプロバイダーサービスのみならず、法人のお客様向け通信サービス「GMO BIZアクセス」を展開しております。2万回線の導入実績を持つ法人向けインターネット接続事業のノウハウを活かし、アリーナのデジタルインフラ強化を進めてまいります。



昨年Q3の
組織体制見直しにより
利益は前年同水準に

■ 売上高 (億円)
■ 営業利益 (億円)

※2024年の数値については現体制であったと仮定した場合の概算数値を記載しております

続いてインターネット広告・メディア事業の状況です。
昨年第3四半期に実施した組織体制の見直しの効果により、営業利益は前年同水準まで回復しております。
引き続き、売上の状況を注視しつつ、安定的な事業基盤の確立を進めてまいります。

GMO NIKKO



ストック商材比率増に注力

お名前.com連携（後述）

+

トライアル利用促進により
今後の売上拡大を目指す

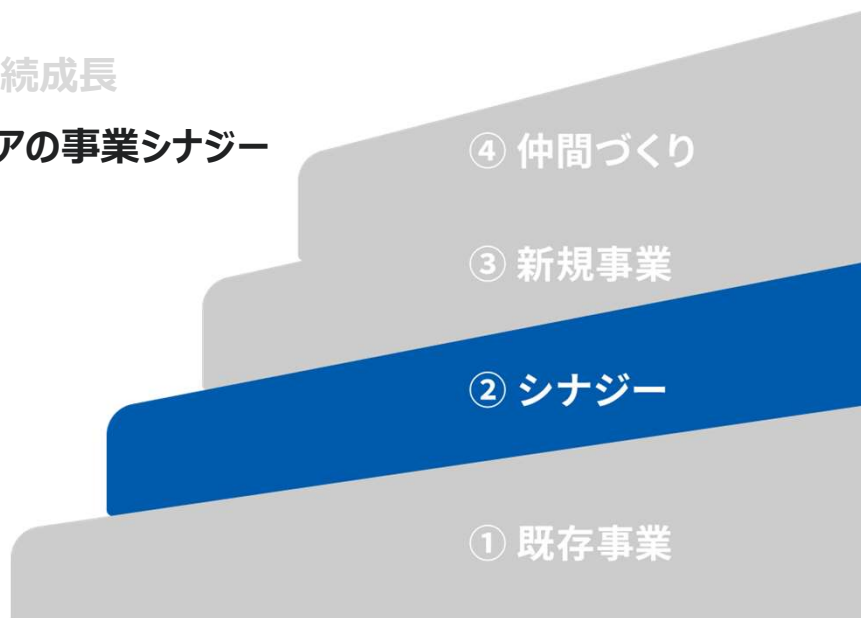
24

インターネット広告・メディア事業では、
売上の安定化のため、ストック商材比率の増加に向けた取り組みを進めています。

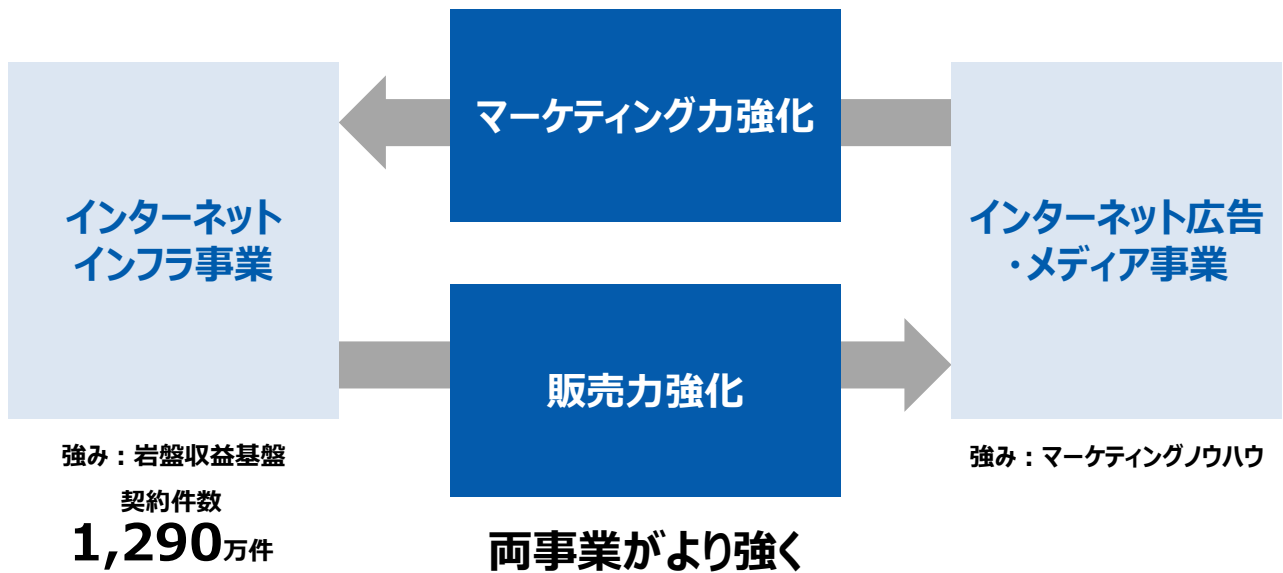
その一環として、こちらの「GMO AIかんたん集客」の提供を行っており、
第1四半期にお名前.comとの連携を開始いたしました。
こちらの詳細は後ほどご説明致します。

加えてトライアル利用の促進も行うことで、今後の売上拡大を目指してまいります。

- ① 既存事業の安定・継続成長
- ② インフラ×広告メディアの事業シナジー
- ③ 新規事業
- ④ 仲間づくり (M&A)



それでは続いて、インターネットインフラ事業とインターネット広告・メディア事業のシナジーに関する取り組み状況についてご説明いたします。



こちらはインフラ事業・広告メディア事業間のシナジーに関する基本方針をまとめた図です。

広告メディア事業のマーケティング力をインフラ事業の新規顧客獲得に活用するほか、インフラ事業の岩盤収益基盤のお客様に対し、広告メディア事業の商品を販売していくことで売上の更なる拡大が可能であると考えています。



**お名前.comの顧客向け
割引プランリリース
送客とストック収益化を図る**



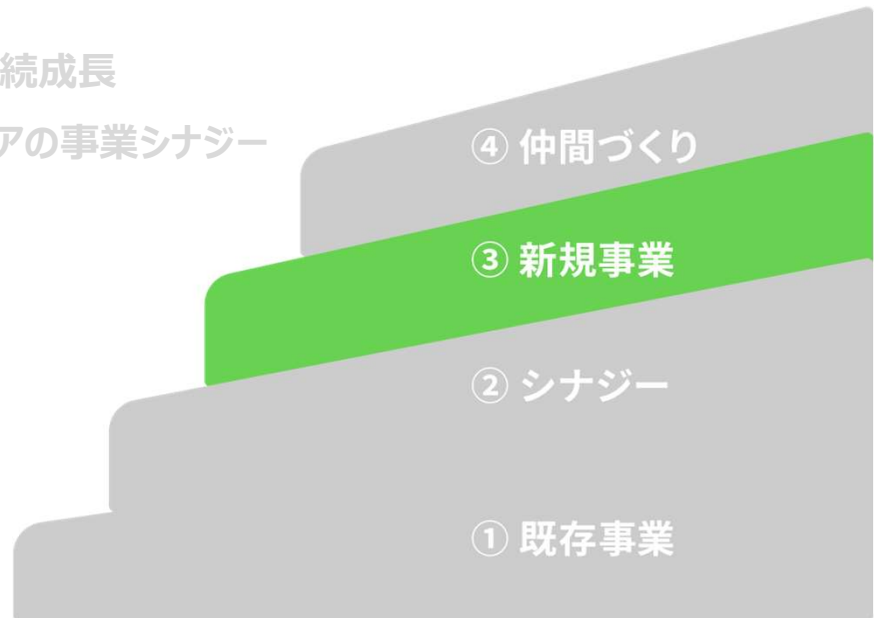
**インターネット接続事業の
既存顧客向け優待サイトを
広告メディア事業のノウハウ
で運営**

シナジーの事例をいくつかご紹介させていただきます。

まず先程紹介の「GMO AIかんたん集客」について、
お名前.comのお客様向けの割引プランをリリースいたしました。
これにより、強固な顧客基盤からの送客と、ストック収益化を進めてまいります。

また、これまでの事例としては、インターネット接続事業の既存顧客向け優待サ
イトを
広告メディア事業で得た媒体運営ノウハウを活用して運営することにより、
お客様の満足度アップを図っています。

- ① 既存事業の安定・継続成長
- ② インフラ×広告メディアの事業シナジー
- ③ **新規事業**
- ④ 仲間づくり (M&A)



続いては、新規事業GMO GPUクラウドの状況についてご説明させていただきます。



NVIDIA HGX B300 搭載GPUサーバー25台 全台サービス開始

42台の追加投資を決定

29

昨年末よりサービス開始したB300GPUサーバーですが、
2026年第1四半期のあいだに予定していた25台がすべて提供可能となりました。

また、本年のB300稼働率が好調に推移する見通しであるため、先月さらに42台
の追加投資を決定いたしました。

投資実績 / 計画

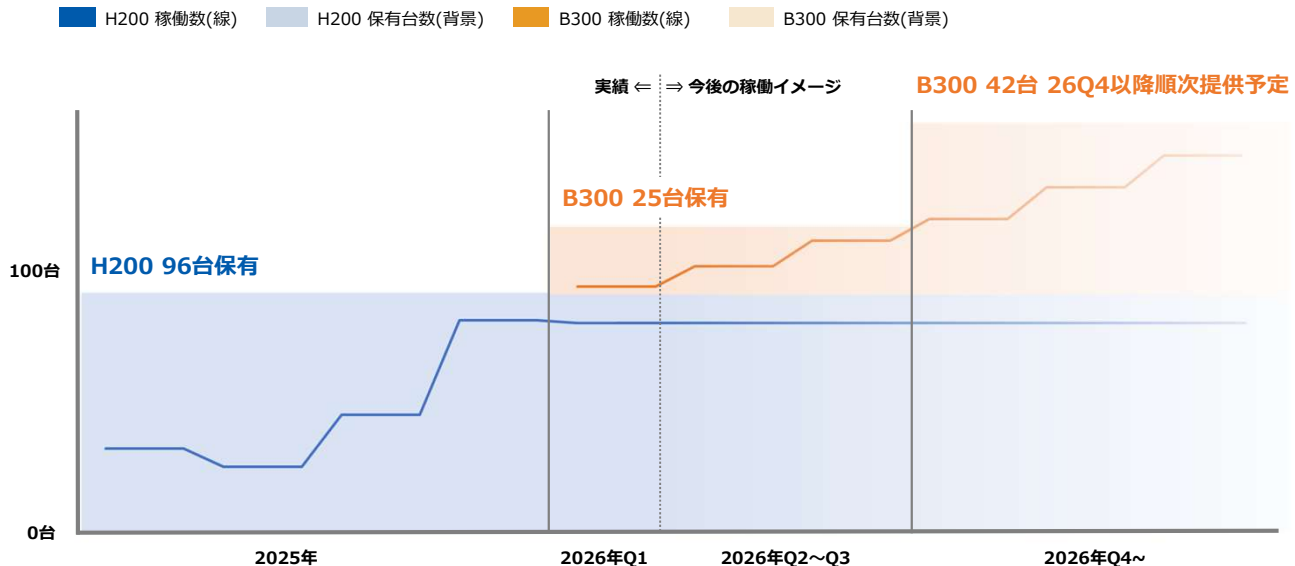
- 2023/12 ○ NVIDIAパートナープログラム参画
 - 2024/ 2 ○ NVIDIA H200 搭載GPUサーバーへの
約**100億円** (GPUサーバー**96台**) の投資を決定
 - 2024/ 4 ○ 経済産業省による「クラウドプログラム」供給確保計画の
認定を取得。最大**19.25億円**の助成予定を公表
 - 2024/11 ○ 「GMO GPUクラウド」サービス開始
(H200 搭載GPUサーバー)
 - 2025/ 3 ○ ストレージ 2.5PiBへ**2億円**の投資を決定
 - 2025/ 8 ○ B300 搭載GPUサーバー25台へ**22億円**の投資を決定
 - 2025/12 ○ B300 搭載GPUサーバー サービス開始
 - 2026/ 4 ○ B300 搭載GPUサーバー 42台へ**69億円**の投資を決定
- 稼働状況を勘案しつつ、追加投資を継続

**調達資金残 96億円は
2027/12までに投資予定**

30

こちらはこれまでのGPUクラウド事業への投資実績です。
先月発表した追加投資分を加え2026年第4四半期にはB300サーバーが合計67台
となります。
また冒頭に説明いたしました新株発行による資金調達のうち残り96億円も
随時、最新チップを搭載したGPUサーバーの増強に投資する予定となっております。

サーバ保有台数・稼働状況（イメージ）

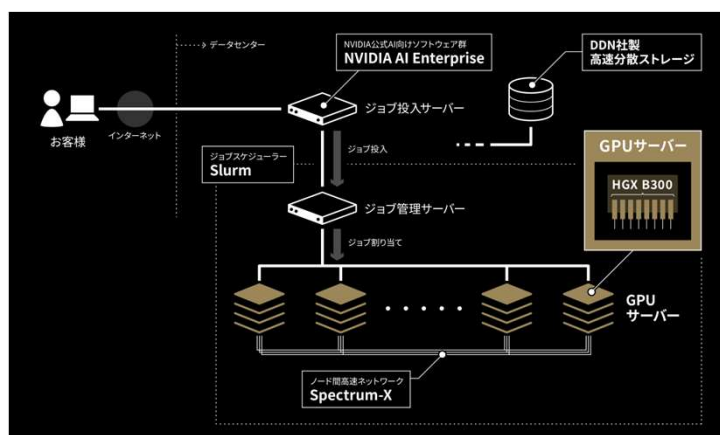


31

こちらは、2025年から2026年におけるサーバーの台数・稼働状況のイメージです。

H200は順調に稼働率が高まり、年末にはほぼフル稼働を達成、2026年に入ってから高い稼働率を維持しています。
B300については、第1四半期より全台提供を開始いたしました。足元ではまだ提供開始から間もないこともあり稼働率はH200ほど高くありませんが、営業活動は順調に進捗をしています。
そうした背景もありB300 42台への追加投資を決定しており、こちらは本年第4四半期以降順次提供予定です。

B300においても構築済みSlurm実行環境を提供開始 クラスタ利用が可能に



Slurm：クラスタシステムのための業界標準であるジョブスケジューラー。リソースの割り当て・ジョブの制御・モニタリング機能を提供
クラスタ利用：多数のGPUサーバーを高速ネットワークで接続し、単一の強力なシステムとして並列処理を行う計算環境

32

GPUクラウドのトピックスです

まずB300についてですが、

サービス開始時には、ソフトウェアによる処理を挟まず、お客様がGPUに直接アクセスできる「ベアメタルプラン」のみを提供しておりました。

その後H200同様に構築済み環境でGPUサーバーを複数まとめて使用できるプランの提供を開始いたしました。

複数のGPUサーバーをまとめて使用することでさらに処理能力が向上いたします。

なお推論面でニーズのあるベアメタルプランも変わらずご利用いただけます。

TURING**2030年に完全自動運転を目指す
カメラの映像情報をAI分析、AIで認識・制御を行う
(E2E自動運転モデル)**

チューリング株式会社 CTO 山口 祐 氏

B300は搭載メモリの大きさを活かし、自動運転AIの中核を担う大規模モデル（VLA）の分散学習に活用しています。また、次世代車載チップ「Thor」と共通のアーキテクチャを持つことから、将来的な実装を見据えた効率的な学習・推論手法の検証にも前向きに取り組んでいます。H200は実績のある安定した環境として、既存車載モデルの学習・改良・検証といった日常的なワークロードを担っています。このように、H200を「現行モデルの安定運用」、B300を「次世代技術の先行開発」という形で明確に役割分担することで、開発効率と技術革新の両立を図っています。

33

B300の利用事例が出始めておりますのでご紹介いたします。

Turing様ではB300とH200を併用いただいております、CTOの山口様からコメントを頂戴しました。

H200を現行モデルの安定運用、B300を次世代技術の先行開発と、それぞれ役割を分けながら特徴を活かした運用をいただいております。

Turing様にGMO GPUクラウドをご選択いただいた背景については、アスキーWeb版にて詳細インタビューが掲載されております。
ぜひご覧ください。

NVIDIA Partner Network Award 2026 「Best NCP Award」を受賞 ※NVIDIA Cloud Partner



(左) Chuck Tybur氏, SVP, NVIDIA Partner Network (NPN), NVIDIA、(右) GMOインターネット 専務執行役員 児玉 公宏

34

本年3月17日、米国サンノゼで開催された、NVIDIA様主催の「GTC 2026」において「NVIDIA Partner Network Award 2026」の「Best NCP Award」を受賞いたしました。

当日はドメイン・レンタルサーバー事業を統括する児玉が現地に於て、NVIDIA Partner Network担当シニア・バイス・プレジデントのタイバー氏よりトロフィーを受け取りました。

なお「NCP」は「NVIDIA Cloud Partner」の略称です。
受賞理由としては、NVIDIAの推奨構成の活用し、日本におけるソブリンクラウドを推進したこと、また第三者評価機関からも高い評価を受け、日本のお客様に対してNVIDIAのリファレンスアーキテクチャーを広く示したこと
これら評価されたものです。

今後もNVIDIA様との連携をさらに深めながら、日本のAI開発を支えるインフラの拡充と、AI技術の社会実装の加速に貢献してまいります。

IOWN APNを活用した 東京-福岡間 遠隔分散型AIインフラの技術実証を完了



今後の新たなニーズに対応すべく
新技術の検証を継続

IOWN : Innovative Optical and Wireless Network
NTTの次世代の通信・情報処理基盤

APN : All-Photonics Network

IOWNを構成する主要な技術分野の1つとして、端末からネットワークまで、すべてにフォトニクス（光）ベースの技術を導入

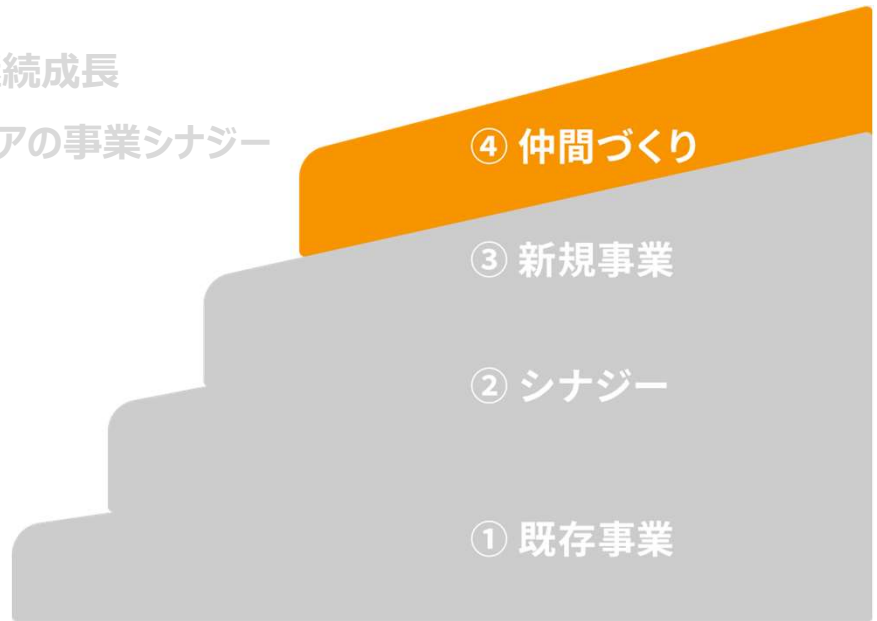
35

昨年10月より、NTT東日本様、NTT西日本様、QTnet様と共同で進めてまいりました「次世代分散型AIインフラ」の技術実証が完了し、その結果を発表いたしました。

本実証では、福岡のGPUと東京のストレージをIOWNで繋ぎ、AI開発基盤におけるAIワークロード性能を測定しております。
その結果、同一データセンター内での接続と遜色ないパフォーマンスを発揮できることを確認し、
「計算資源とデータの分離」という新たな選択肢を示すことができました。

今後も今回のIOWNを用いた実証に限らず、将来のお客様のニーズに対応すべく、引き続き新技術の検証を進めてまいります。

- ① 既存事業の安定・継続成長
- ② インフラ×広告メディアの事業シナジー
- ③ 新規事業
- ④ 仲間づくり (M&A)



つづいて仲間づくり、一般的に言うM&Aの状況につきましてご報告させていただきます。

積極的仲間づくり（M&A）で成長加速



テーマ

- ・ 既存事業のシェア拡大
- ・ スtock型商品の強化
- ・ グループ内の組織再編

37

こちらは当社の仲間づくりに関する基本方針です。

インフラ事業・広告事業の更なるシェアアップ、
岩盤収益がさらに強化されるストック商材の仲間づくり、
またグループ内の再編といったテーマをもとにご一緒できる仲間を探してまいります。

公募/売出完了を受け 積極的に推進

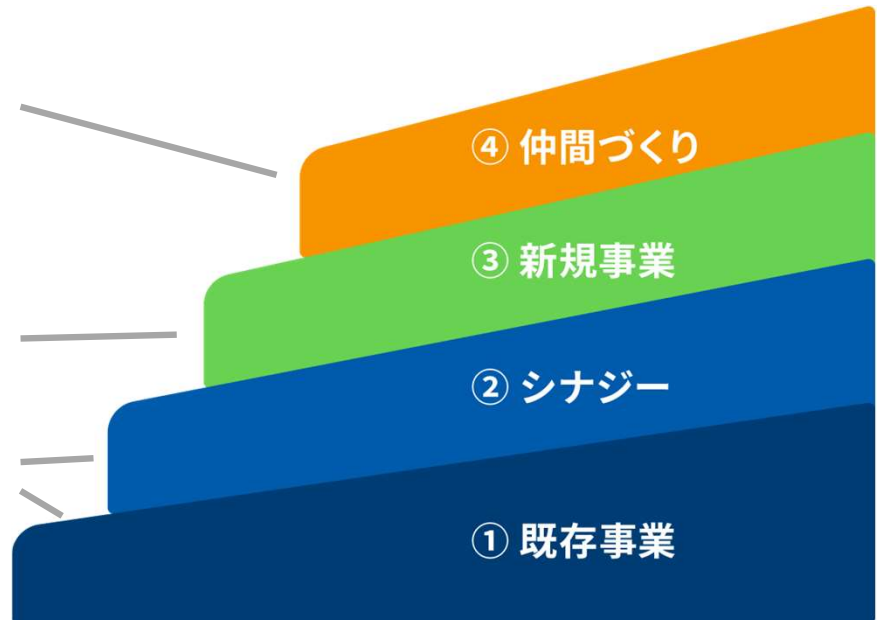
資本政策上の制約が解消
検討・協議を機動的に推進

調達資金による GPUへの投資実行

96億円をGPU等の設備投資に充当

既存事業の安定・継続成長

岩盤ストック収益の15%成長を下支えに、
新規事業/仲間づくりへの投資と
安定した全社の利益成長を両立



38

こちらは冒頭でもご説明した、公募・売出の完了を受けた今後の方針です。

改めてにはなりますが、今回の公募・売出の完了によって資本政策上の制約が解消されましたので、仲間づくりに関し、候補となるお相手の検討や協議など、これまでも増して機動的に展開していきたいと考えております。

1. 2026年第1四半期 決算サマリ

2. 成長戦略・各分野の進捗と施策

3. 株主還元について

4. 参考資料

つづいては、株主還元についてです。

一株当たり
四半期純利益

6.02円

×

配当性向

100%[※]

(65% + 35%)
(基本配当性向) (記念配当)

＝

Q1配当

6.02円

※自己株式の控除調整実施前の配当性向となります

※記念配当は2025年－2026年の2年間を予定しております

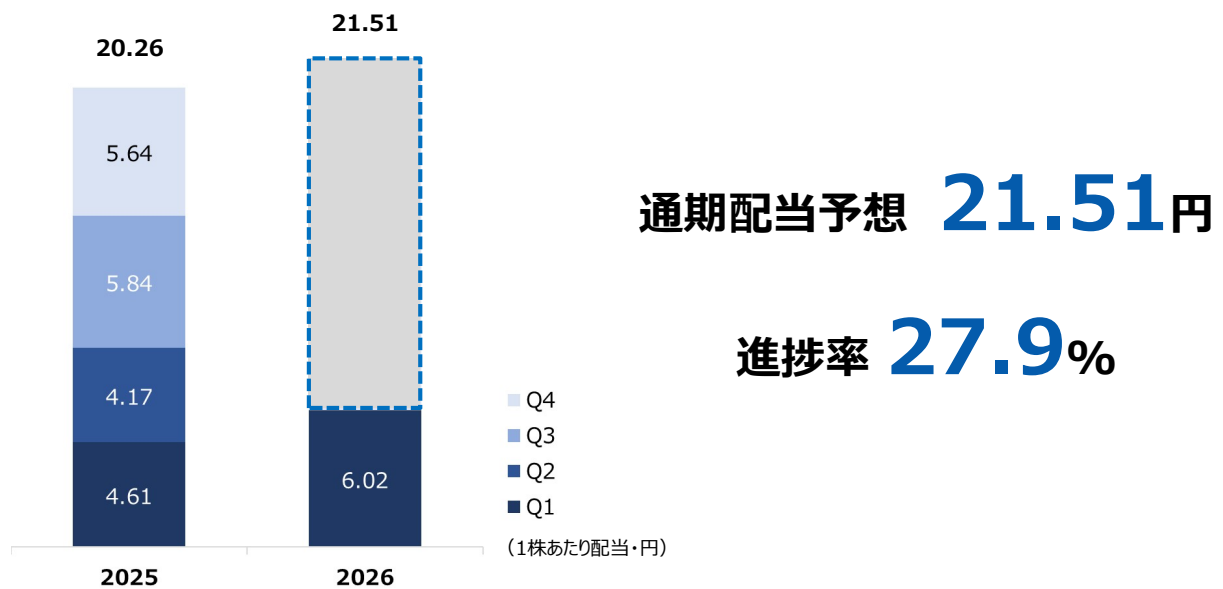
40

こちらが今四半期の配当の状況です。

前年度から四半期配当を実施するとともに、プライム市場への変更による記念配当により、基本配当性向65%、記念配当性向35%、合計して配当性向100%での配当を2年間行います。

よって、1株当たりの四半期純利益、6.02円を100%配当させていただきます。

1株あたり通期・四半期配当推移



41

今期の配当予想については、1株あたり21.51円となっております。
今四半期の配当6.02円に対する進捗は、27.9%となりました。

- ▶ 公募売出が完了し、**上場維持基準充足**
事業投資および仲間づくりを加速
- ▶ 第1四半期の進捗は順調
開示予想に対し25%超の進捗
- ▶ GPUクラウド事業において、
B300搭載サーバー 42台へ69億円の投資を決定
- ▶ 四半期配当実施・配当性向**100%**は継続^(※)

※記念配当は2025年・2026年の2年間を予定しております

42

最後に、本日のポイントについてまとめます。

まず重要なポイントとして、公募・売出が完了し、東京証券取引所プライム市場における上場維持基準を無事満たすことができました。
資金調達も同時に実施しましたので、新規事業への投資および仲間づくりを今後加速させていきます。

また、第1四半期の進捗状況は順調であり、営業利益ほか、開示予想に対し25%超の進捗で今期をスタートすることができました。

GPUクラウド事業においては、先程の資金調達を踏まえ、B300搭載サーバー 42台へ69億円の投資を決定しています。

配当については2026年においても100%配当を行うとともに、四半期配当の実施を継続してまいります。

すべての人にインターネット

GMO

ご説明は以上でございます。
ご清聴、誠にありがとうございました。
すべての人にインターネット

1. 2026年第1四半期 決算サマリ

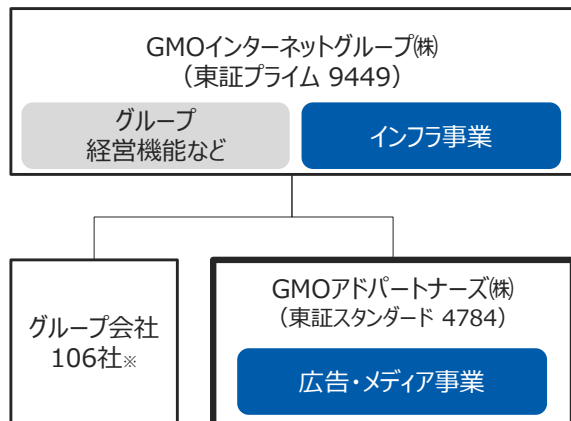
2. 成長戦略・各分野の進捗と施策

3. 株主還元について

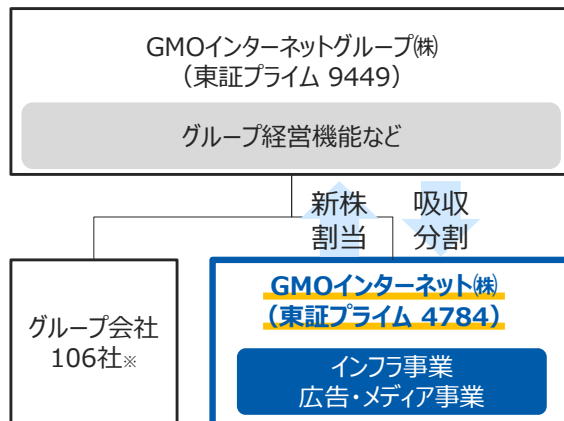
4. 参考資料

GMOインターネットグループ[㈱]の事業を、GMOアドパートナーズ[㈱]へ承継し、
GMOインターネット[㈱]に社名変更。GMOインターネットグループ[㈱]は持株会社化。

～2024.12.31



2025.1.1～



※2024年12月時点

パートナー (社員) 数

国内 : 1,149名 海外 : 936名 (2026年3月末時点)

拠点

東京・仙台・大阪・北九州・福岡・宮崎・沖縄
タイ・ベトナム・フィリピン・モンゴル・ミャンマー・ラオス

2025年 売上高

785億円

連結グループ会社

GMO NIKKO GMO INSIGHT Z.com 海外9社

企業サイトURL

<https://internet.gmo/>

代表者

代表取締役社長 伊藤 正

インターネットインフラ事業

ドメイン事業

個人・法人顧客に対し、ウェブサイトの住所に
当たるドメインの登録・販売（レジストラ）
サービスを提供



クラウド・レンタルサーバー （ホスティング）事業

個人・法人顧客がオンラインビジネスや情報発
信を行う環境として、インターネットのインフラ
（サーバー）を提供



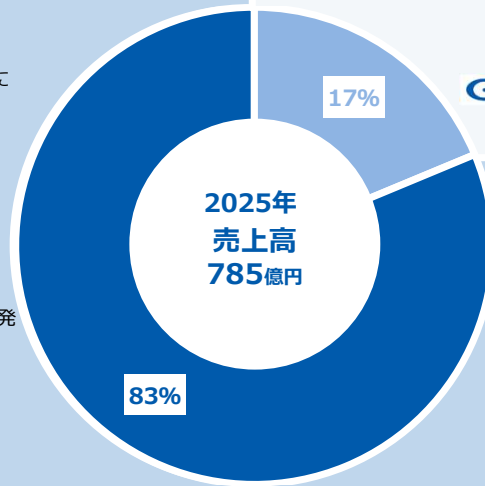
インターネット広告・メディア事業

Webマーケティングソリューションの提供
自社運営のオンラインメディアを展開



インターネット接続 （プロバイダー）事業

1995年の創業以来、個人・法人顧客に対して
信頼性の高い光回線・モバイル回線による
インターネット接続サービスを提供



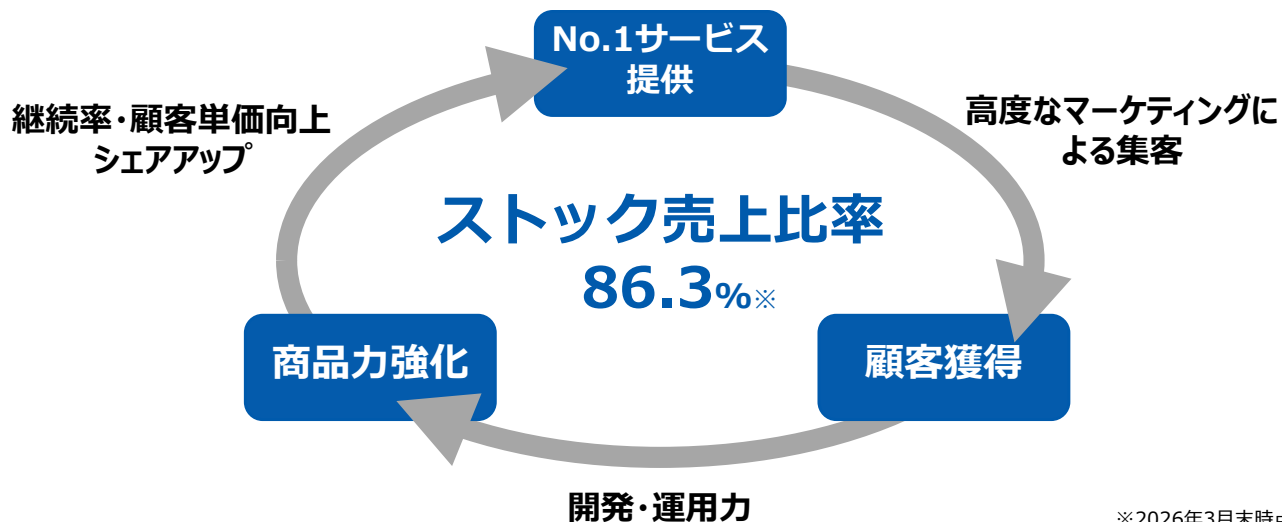
無くならない、無くてはならない
かつ
継続課金の商材



契約件数 **1,290**万件※

※2026年3月末時点 国内件数

No.1サービスの提供およびマーケティング力の強化により顧客開拓・獲得の加速を目指す
経験豊富なエンジニアの開発力を活用し、高品質なサービスの提供や満足度・継続率の向上を目指す










(単位：百万円)

流動資産		流動負債	
現金	14,966	買掛金	3,585
受取手形、売掛金及び契約資産	12,415	短期借入金	8,200
前払費用	6,629	1年以内返済長期借入金	1,381
その他	2,739	未払金	5,645
流動資産合計	36,751	契約負債	10,589
固定資産		その他	5,415
工具器具備品	4,810	流動負債合計	34,817
リース資産	4,465	固定負債	
その他	977	長期借入金	3,777
有形固定資産合計	10,253	リース債務(長期)	3,852
のれん	1,307	その他	284
ソフトウェア	2,042	固定負債合計	7,915
その他	468	負債合計	42,732
無形固定資産合計	3,818	株主資本	
投資有価証券	4,138	資本金	500
繰延税金資産	1,293	資本剰余金	9,524
その他	596	利益剰余金	3,426
投資その他の資産合計	6,028	自己株式	▲179
固定資産合計	20,100	株主資本合計	13,271
		その他の包括利益累計額	354
		自己資本合計	13,626
		新株予約権	257
		非支配株主持分	235
		純資産合計	14,119
資産合計	56,852	負債純資産合計	56,852

投資有価証券・短期借入金
： Turingへの出資による増加

※公募増資による影響はQ2より反映

セグメント	サブセグメント	内訳
インターネット インフラ事業	ドメイン・ レンタルサーバー事業	  
	インターネット接続事業	 
	インターネットインフラ事業 その他	海外事業 インフラ事業 共通費等
インターネット広告 ・メディア事業	インターネット広告 ・メディア事業	 
	インターネット広告 ・メディア事業 その他	広告事業 共通費等
その他及び連結消去		全社共通費等 連結消去

- ・決算短信においては、セグメント別の売上・営業利益を開示しております。
- ・当決算説明資料における区分は、決算短信のセグメントに関し内訳を詳細にご説明できるようサブセグメントを設けております。
- ・各セグメント内におけるサブセグメントの合算値がセグメントの値と同一となるよう区分をしております。

セグメント	サブセグメント	内訳	
インターネット インフラ事業	ドメイン・ レンタルサーバー事業	  	<p>既存事業 (GPUクラウドを除く、ドメイン・レンタルサーバー事業 およびインターネット接続事業) ：ストック性の高い収益構造を有する事業です。 結果として、大きなボラティリティや季節要因による変動は発生しにくい構造です。</p> <p>新規事業 (GPUクラウド) ：25年Q4を目処に立ち上げフェーズは終了しています。 状況を見て追加の設備投資を行う可能性があります。</p> <p>海外事業の売上高および全社共通費の配賦が含まれます。 共通費の配賦に関しては、固定費的性格が強いものです。</p>
	インターネット接続事業	 	
	インターネットインフラ事業 その他	海外事業 インフラ事業 共通費等	
インターネット広告 ・メディア事業	インターネット広告 ・メディア事業	 	<p>インターネット広告事業は年末予算消化など、季節性による変動の影響を受けます。 25年Q3に組織見直しによるコスト削減を行いました。</p> <p>全社共通費の配賦が含まれます。 共通費の配賦に関しては、固定費的性格が強いものです。</p>
	インターネット広告 ・メディア事業 その他	広告事業 共通費等	
その他及び連結消去		全社共通費等 連結消去	<p>全社共通費のうち配賦されなかった費用および 連結消去がここに含まれます。</p>

※1：本資料は各事業の構造および傾向に関する考え方を示したものであり具体的な業績予想や数値水準を示すものではありません。

※2：インターネットインフラ事業及びインターネット広告・メディア事業における「その他」に含まれる共通費に関しては、2025年1月のGMOインターネットグループからの事業譲受前の事業別実績と近い基準で各事業の推移を比較することを目的とし、各事業に紐づく共通費や配賦分の共通費を切り出しているものです。

【取締役】



取締役会長
熊谷 正寿



代表取締役
社長執行役員
伊藤 正



取締役
副社長執行役員
広告メディア事業担当
橋口 誠



取締役
安田 昌史

【監査等委員である取締役】



取締役監査等役員
岩濱 みゆき



取締役監査等役員
杉野 知包



取締役監査等役員
鮎川 拓弥

【執行役員】



副社長執行役員
システム部門担当
山下 浩史



専務執行役員
ネットワークソリューション事業本部長
林 泰生



専務執行役員
ドメイン・クラウド事業本部長
児玉 公宏



執行役員
経営本部長
菅谷 俊彦



執行役員
GMO NIKKO株式会社
代表取締役社長
佐久間 勇



執行役員
GMOインサイト株式会社
代表取締役社長
徳永 伸一郎



執行役員
シナジープロジェクト担当
齋藤 稔



執行役員
システム本部長
牧田 哲



執行役員
事業成長推進室長
安永 成志

本資料取扱い上のご注意

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2026年5月15日現在のデータに基づいて作成されております。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

本資料に引用しております各社商標、著作物等知的財産権、並びに肖像権その他一切の権利は、当該知的財産権を有する各権利者並びにその権利の主体に帰属します。

GMOINTERNET